

国立病院機構熊本医療センター

No.150



# くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター〒860-0008  
熊本市二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

## タイ、コンケン病院との姉妹提携

このたび当院はタイのコンケン病院と姉妹協定を締結しました。コンケンはタイの東北部の教育ならびに経済の中心であり、コンケン県の人口は熊本県とほとんど同じ170万人です。1947年に設立されたコンケン病院は867ベッドを有するタイ東北地方で3本の指に入る大きな総合病院であり、当院と同じように大学病院と共に協力しながらその周囲の県に広がる医療を担っています。

コンケン病院と姉妹提携することになった背景として、これまで熊本とコンケンとの間では医学部同士の大学間交流が行われてきました。コンケン病院はコンケン大学病院との協力により、あるいはJICAやWHOの協力を得て、東南アジアでトップクラスの外傷救急センターを設立し、さらに国内外での学術活動でいくつもの賞を受賞するなどして、the Hospital Accreditation Board of Thailandによりタイの優秀な5公立病院の1つに選ばれるほどになりました。そして更なる目標として医療の質の向上を掲げ、本格的な国際交流を始めることになったようです。

来熊メンバーはDr. WERAPHAN SUPHANCHAIMAT(病院長)、Dr. SIRIJITT VASANAWATHANA(医

学研修担当副院長、小児科部長)、Dr. WATTANACHAI SUSAENGRAT(副院長、内科部長)、Dr. WEERASAK ANUTAUNGKON(システム開発担当副院長代理、眼科部長)、MRS. SUVAKONT KAEWON(地域連携担当副院長、生涯看護教育センター長、看護師)、MRS. KHOMNET TIANGPITAYAGORN(経営担当副院長、タイ検査技師協会会長)、MS. RATIONORN PORNKUNA(院長秘書、看護師)の7名です。2009年11月14日に福岡空港に到着した一行は、16日には熊本県庁ならびに熊本市役所をそれぞれ表敬訪問し、その日の午後に当院の見学ならびに調印式に臨みました。

今回の調印では、コンケン病院と国立病院機構熊本医療センター間の相互理解と友好を通じて学術交流を促進し、両施設での教育の発展と研究プログラムを推進することを目的としています。コンケン病院は当病院と同様に救急医療、研修教育、看護教育などの活動に加え、地域に根ざしたコミュニティー活動も行っており、両院のさらなる飛躍のためにより良い国際協力体制を築くことは双方にとって有益であると考えられました。

(血液内科医長 武本 重毅)



調印式の模様



調印式後、当院スタッフと記念撮影



## 「個展と私」

稲葉内科医院

院長 稲葉 哲郎

花園1丁目、本妙寺参道で父の医院を継承し、内科を開業して現在28年になります。地理的には、国立病院機構熊本医療センターと目と鼻の先で、隣近所の感覚でいつも患者さんの相談や紹介をやらせてもらっています。

ところで、高校の美術部で美大を目指した時期もあり、私の楽しくて大切な時間は絵と対面している時です（苦しくもありますが…）。最近の事ですが、京都を中心に全国でご活躍の陶芸家 武田浪先生の強いお勧めで、9月22日より1週間、京都四条河原町の画廊「ギャラリー・マロニエ」で個展を行いました。熊本では、20年前より5、6年おきに個展をやっておりますが、県外での開催は初めてでした。京都は、京都芸大他5～6位の美大があり、また千年の都で美意識が高く、美に対して厳しい土地柄と聞き、覚悟を決めて出発しました。初日のオープニン

グパーティは、武田先生の知名度により、美術評論家、美大関係の方、伝統工芸家他、多方面多分野の方々の参加と、熊本から応援していただく方々の出席もあり、30余人程の楽しい時間となりました。美術評論家の方々からは「久しぶり本物の絵をみせてもらった。」「是非次回も京都で開催して下さい。」等と予想以上の評価をいただき、身の引き締まる思いとともに、次の作品の制作にも意欲が湧いてきました。新幹線で二度往復しましたが、心地良い疲れを感じながら帰熊しました。

さて1ヶ月後の今は、本業に戻り、新型インフルエンザの流行の兆しと直面し、医業の現実に戻り日々奮闘しています。

最後になりましたが、貴院職員の方々の御苦勞に感謝し、今後国立病院機構熊本医療センターが新築を機に、益々発展される事を祈っています。そして、貴院と患者さんとの「架け橋」になれるよう努めたいと思っています。



「一心行の桜」 京都の個展にて

## アハメド・ゴハリー-エジプト・ファイユーム大学学長が当院を訪問

この度、当院との国際交流で最も密接で長く交流が続いています、アハメド・ゴハリー-エジプト・ファイユーム大学学長が当院を訪問し、新病院を見学しました。見学したすべての部署で驚きを隠さず、特にトイレがすべてウォッシュレットであるのに驚嘆していました。今回は、新制熊本大学設立60周年記念式典に招待され、招請講演を行うための来日でした。

ゴハリー学長は、17年前、当院で今も行っています集団研修コース“血液由来感染症”に研修員として参加しました。帰国後も、当院と相互の交流を続け、当時彼が在籍していたスエズ・運河大学からは、多くの医療従事者が当院に研修に来られました。その後、当院の研修コースをお手本に、主にアフリカの医師の研修を行う目的で同様の研修コースをスエズ・運河大学で開催し（第3国研修）、当院からも毎年講師を派遣してきました。

昨年からは、ゴハリー博士はカイロ近郊のファイユーム

ム大学の学長となり、今年からは、ファイユーム大学にうつして第3国研修が開始されることになりました。当院からは、今後も毎年講師を派遣することになっています。今後、益々密接な交流が発展することを希望しています。（副院長 河野 文夫）



見学中のゴハリー学長

## 新病院施設紹介〈2〉

### 放射線科

#### 画像診断センター



128列MD-CT Definition AS+



64列MD-CT Sensation 64

新病院の開院に合わせて、放射線科に新しい装置が導入されました。4階の画像診断センターでは128列と64列のMD-CT 2台（シーメンス社製）が稼働を始めました。128列MD-CTでは、従来の3D画像に時間軸を加えた4D画像いわゆるリアルタイム4D-CT撮影が可能です。4D-CTは撮影範囲20cm/2秒の往復連続撮影にて、血管造影（DSA）を凌駕するきれいな画像が得られます。また、2台フル稼働にて、毎年増加しつつある救急症例に充分対応可能となりました。

#### 放射線治療センター・核医学センター



放射線外照射装置リニアック



治療計画用大口徑CT Sensation 20



小線源治療装置ラルス

1階の放射線治療センターでは、新規導入したマルチリーフコリメータ内蔵の外照射装置リニアック（シーメンス社製）と小線源治療装置ラルス（マイクロセレクトロン）が12月から稼働予定です。画像ガイド下放射線治療（IGRT）および子宮腔内照射だけでなく胆管等の腔内照射も可能となります。治療計画用大口徑の20列MD-CTも新たに稼働します。癌診療拠点病院として放射線治療の威力を発揮します。

1階の核医学センターでは、PET-CT室を完備し将来的にPET検査を行う予定にしております。ご利用の程、よろしくお願い致します。

（放射線科医長 吉松 俊治）



医長  
青木 浩則  
眼科一般、角膜疾患、眼感染症  
日本眼科学会認定専門医



医師  
浦野 貴之  
眼科一般、白内障、ぶどう膜炎  
日本眼科学会専門医

## 診療内容・特色

眼科は現在医師2名で診療しています。診察は小児から高齢者に至る、多岐にわたる眼疾患に対応いたします。

手術では、2001年から網膜硝子体手術機器を整備し糖尿病網膜症など硝子体疾患に対しての手術を行っています。

入院では、入院患者の95%にクリティカルパスを使用して効率的な医療を行い、患者様に喜ばれています。

総合病院の眼科の特色を生かして、全身疾患に合併した眼疾患の入院治療および精神科疾患を有する患者様や透析の必要な患者様の入院手術にも取り組んでいます。

これからも良質の医療を提供できるよう努力して参ります。

## 診療実績

手術件数は例年400件前後で推移しています。2008年4月～2009年3月の新患者数は939人、新入院患者数361人、手術症例数（眼）は466眼でした（表）。クリティカルパスの使用により、より効率的な入院治療が行われ在院日数も年々短くなっています。また、白内障手術に関しては患者様と相談の上、可能であれば日帰り手術も含めた短期入院での治療を行っております。

表 眼科患者数及び手術症例数

	外来新患者数	新入院患者数	手術症例数
2006年度	1,319	321	437
2007年度	1,071	339	446
2008年度	939	361	466

## 研究実績

2000年より政策医療ネットワークを構築し、国立病院機構東京医療センターと協力し、眼科診療におけるクリティカルパスについて「臨床眼科」に掲載発表しました。現在は白内障のQOLに及ぼす影響とEBMに基づくドライアイについての共同研究に参加しております。また、当院の治験センターを利用し積極的に臨床試験にも参加しています。

## ご案内

外来は月曜～金曜の毎日です。ただし、火曜日と木曜日は手術日のため、担当医1名が診察にあたります。出来ましたら月・水・金曜日のご受診をお願いします。また、時間外・休日の患者様には24時間体制でオンコールシステムをとり、救急医療にあたっています。眼科領域の疾患に関してのご相談などございましたらいつでもご連絡ください。

## ■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

## 水曜日の皮膚科の診療応援を始めました



前川嘉洋先生

以前当院に勤務しておられた、皮膚科の前川嘉洋先生の診療が再び始まりました。毎週水曜日です。

現在、皮膚科は浅尾医長を含め3名の医師で対応しておりますが、ベテランの前川先生が診療応援をして

いただくことで、従来の患者様も安心してご受診いた

だけますし、皮膚科医師にとっても実績のある前川先生の診察等を肌で感じながら大変勉強になっているようです。

前川先生は2005年4月に当院より、奄美大島の国立療養所和光園へ院長として赴任されました。その後、2008年3月に退職され、本年5月より当院皮膚科の水曜午前中の外来診療にあたられています。

(副院長 河野 文夫)

## 女性医師による乳腺外来始めました

外科  
藤原沙織医師

当院の運営につきまして、常日頃より、諸先生方にご指導、ご鞭撻賜り厚く御礼申し上げます。

本年6月より新たに加わった藤原沙織医師が毎週火曜日に乳腺外来を担当することになりました。

藤原医師は、熊本大学医

学部を卒業し、臨床研修終了後、2008年に熊本大学乳

腺内分泌外科に入局し乳癌を中心に診察にあたってきました。当院では、消化器をはじめ外科一般を担当しておりましたが、本年11月より、乳腺外来を専門に担当しております。

乳腺疾患は、女性のデリケートな部分ですが、女性医師が担当することにより、患者様の精神的面のサポートになり、大変好評です。診察を躊躇なさっている患者様がおられましたら、火曜日にご紹介いただきますようお願い申し上げます。

(外科部長 片淵 茂)

### 第15回 国立病院機構熊本医療センター医学会の開催と演題募集のご案内

第15回国立病院機構熊本医療センター医学会が2010年1月16日(土)に国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センターにて開催されます。

例年通り病院全体の職種が参加し発表します。

開放型病院登録医の先生方にも是非ご発表頂きたく演題募集をさせていただきます。

応募方法は演題抄録をフロッピー、CDまたはUSBに入れて下記宛ご送付頂くか、e-mailにてご送付下さい。

多数のご参加をお待ち致しております。

抄録提出締切日：2009年12月4日(金)

- 抄録の文字数は全体(演題名、所属、発表者、共同演者、本文)で600字以内にしてください。
- 本文は【目的】【方法】【結果】【総括】、症例報告は【目的】【症例】【経過】【考察】にそれぞれ記述して下さい。
- 図表の使用はできません。半角カナは使用できません。
- 尚、発表は原則としてPCで、使用ソフトはパワーポイントで作成したものに限りませう。
- 発表時間は6分、討論3分です。
- 参加費は無料です。

お問合せ・送付先：〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター医学会実行委員 臨床研究部長 芳賀 克夫

TEL：096-353-6501 FAX：096-325-2519 E-mail:scott@kumamoto2.hosp.go.jp

# セカンドオピニオン外来(保険外診療)について

先生方には、常日頃より患者さまのご紹介有難うございます。

2005年8月より、セカンドオピニオン外来(保険外診療)を開始しまして4年と4ヶ月が経ちました。今回、改めまして当院のセカンドオピニオン外来についてご案内させていただきます。

## 1. セカンドオピニオンでは新たな治療および検査は行いません

先生方からの資料(紹介状、診療情報提供書、検査データ、レントゲンフィルムなど)に加えて、患者さまより直接お話しをお聞きしたうえで診断・判断し、当院専門医の意見を述べさせていただきます。

最初から、当院での検査、治療、入院等をご希望される場合は、「セカンドオピニオン」の対象となりませんので、通常の一般外来へのご紹介をお願い致します。

## 2. セカンドオピニオンは**完全予約制**です

地域医療連携室(代表電話 096-353-6501)へ電話して頂き、「セカンドオピニオンを希望する」とお申込みください。また患者さまに地域医療連携室(10番)に直接おいで頂いてお申し込み頂いても結構です。申し込み用紙は地域医療連携室にて準備しております。お申し込みの相談内容について、当該科の医師があらかじめ判断したうえで、実際の受診の可否を決定いたします。内容によってはお断りする場合もございますのでご了承下さい。実施日時及び担当医を決定しお知

らせていたします。

## 3. セカンドオピニオンをお受け出来ない場合

以下の場合には「セカンドオピニオン」をお受けできませんのでご了承下さい。

- ・相談内容について当院に専門医がいない場合。
- ・先生方からの資料(紹介状、診療情報提供書、検査データ、レントゲンフィルムなど)が無い場合。
- ・先生方に対する医療過誤等に関する相談。
- ・予約の無い場合。
- ・最初から当院での検査・治療・入院を希望されている場合。

## 4. 健康保険は適応されません(全額自費)

基本料金(30分間)10,500円、30分毎に10,500円追加になります。(消費税込み)全額自費で、健康保険は適応されません。(保険外診療)

なお、当院では、現在当院に受診中の患者さまで、他の医療機関の「セカンドオピニオン」を希望される場合には、遠慮なく主治医にお申し出いただくように患者さまにお願いしています。

## 5. 詳細はホームページにて

当院のセカンドオピニオン外来の詳細につきましてはホームページをご参照ください。

(地域医療連携室長 片渕 茂)

## 第7回 熊本EBMセミナーのお知らせ

下記の通り、第7回熊本EBMセミナーを開催します。今回は、EBMで大変有名な名郷直樹先生をお迎えして、実践的なワークショップを5時間に渡り行います。外部の医師・医学生の方も5名まで参加することができますので、参加を希望される方は、下記に連絡し、事前に登録を行ってください。

<連絡先> 国立病院機構熊本医療センター庶務係長 鶴見肇之(つるみとしゆき)  
Tel: 096-353-6501, Fax: 096-325-2519  
E-mail: tsurumi@kumamoto.hosp.go.jp

### ワークショップ 「実践EBM」

日時：平成21年12月26日(土) 午前10時～午後4時

場所：国立病院機構熊本医療センター2階・研修センターホール

講師：東京北社会保険病院 臨床研修センター長 名郷直樹先生

## 南カリフォルニア大学外科ジェフリー・ヘーゲン准教授を迎えて



参加者の質問に答えるヘーゲン先生

2009年11月8日～12日まで約1週間にわたって米国南カリフォルニア大学（USC）外科のジェフリー・ヘーゲン准教授を当院にお迎えし、主に研修医を対象とした研修を行いました。ヘーゲン先生の当院での研修は今回が3回目で、ヘーゲン先生自身も当院の訪問を楽しみにしておられました。1日目は、真皮や大腸のシリコンモデルを用いた縫合のスキル・トレーニングを行いました。ヘーゲン先生の縫合の講義の後、ヘーゲン先生自ら実技指導をして頂きました。2日目は研修医による症例発表と回診を行った後、USCにおけるレジデント教育の実際を講演して頂きました。USCの外科のレジデントの定員は7名ですが、全米から700名を超える医学生が受験してくることから分かるように、USCは全米でも最も医学生に人気がある病院の1つです。ヘーゲン先生には、アメリカの医学教育の歴史から、レジデント教育に関わる法律及び規則、プログラムの内容、レジデントの生活などを詳細に講演

していただき、とても興味が持てる話でした。3日目には、世界最大のERがあるLAカウンティ・ホスピタルに於ける緊急手術の経験について講演をしてもらいました。日本ではあまり見ない激しい銃創や刺創を数多く経験しているLAカウンティならではの話を聞くことができました。アメリカでは、緊急手術を専門にする外科チームが存在し、「急性期治療外科」という新たな外科の専門分野として地位を確立しつつあることに驚きました。また、USCは緊急手術に関する論文も数多く発表し、そのエビデンスが全米の標準治療として定着していることが改めて分かりました。

今回、症例検討会や回診を通じて、我が国と米国の疾病や治療法、医療制度の違いが相互に理解でき、研修医のみならず指導医にとっても有意義な研修となりました。今後も北米の教育指導者を招聘し、研修医教育の充実に努めていきたいと考えています。

（臨床研究部長 芳賀 克夫）



ヘーゲン先生と一緒に記念撮影

## Small Group Discussionを終えて



臨床研修医  
釜田いずみ

11月8日より5日間、南カリフォルニア大学よりヘーゲン先生をお迎えするというので、10月初旬より症例発表に向けて準備を始めました。今まで症例発表や学会での発表の経験もなかったため、どの症例を発表したらよいか迷うことから始まり、症例が決まった後も英語での発表

ということもありどのような表現をしたらよいか分からず大変苦労しました。英語の論文を読む機会があったため、ある程度は読むことはできましたが、いざ自分で英語の文章を書くとなると、すぐに手が止まり自分の能力のなさに唖然としました。学生時代に英

語をもっと学んでいたらよかったです。結局は、英語の論文を参考にし、また指導医の先生に添削して頂きようやく発表することができました。

本番の発表ではとても緊張しましたが、ヘーゲン先生の穏やかな雰囲気にも緊張も和らぎ、また米国での治療法や医療制度など興味深い話をしてくださり、とても勉強になりました。

今回、初めての症例発表が英語で経験でき、とても貴重な経験ができました。これから多くの英語の論文を読むと思いますが、近い将来には自分が英語の論文を書く必要も出てくるはずですよ。今回の貴重な経験を出発点として、これからは英単語・英語の表現を学んでいきたいと思いました。

最後になりますが、ヘーゲン先生も含め、多くの先生方のおかげでとても有意義な研修を経験することができました。この場を借りて篤くお礼申し上げます。ありがとうございました。

## 研修医レポート

### 臨床研修医

1年次 <sup>おおうち</sup>大内 <sup>まゆこ</sup>繭子



こんにちは。研修医1年目の大内繭子と申します。研修が始まってから、あっという間に半年が経ちました。私は内科系からローテートが始まり、今まで腎臓内科、循環器内科、消化器内科を回り、現在は麻酔科でお世話になっております。

腎臓内科は研修医になって初めてまわった科でしたので、看護師さんへの連絡や報告などの大切さ、患者さんとの接し方など、医師として働くうえで必要なことをたくさん学びました。また、シャント穿刺やカテーテル挿入などの手技も学ぶことができ、とても充実した2か月を送ることができました。

循環器内科では、毎日心臓カテーテル検査があり、

スワングアンツカテーテルの手技を学びました。私は大腿静脈の穿刺がなかなかうまくいかず苦戦しましたが、指導医の先生方は根気強く教えてくださいました。そのお陰で、循環器内科での研修が終わるころにはスムーズにスワングアンツカテーテルを施行するようになれました。循環器内科で学んだ大腿静脈穿刺は他科でも、中心静脈カテーテル挿入をする時に役に立っています。

消化器内科では担当患者さんが多く、今までで1番忙しい科で、対象とする疾患も多く、検査では腹部エコーや内視鏡検査、食道透視などを経験し、治療ではイレウス管挿入やケモを経験することができました。また患者さんが入院経過中に発熱や尿閉などをきたすこともあり、自分で原因を考えて検査をオーダーしたり、他科へコンサルトしたりと、全身的に患者さんを診ることができました。

現在、麻酔科ではルート確保、気管挿管、脊髄くも膜下麻酔などを学んでいます。多くの手技を学びながらこれからも日々成長していきたいと思っていますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 臨床研修医

1年次 <sup>かたぎり</sup>片桐 <sup>みつひろ</sup>光浩



こんにちは。研修医1年目の片桐光浩と申します。久留米大学医学部を卒業し、4月から熊本医療センターで初期研修させていただいております。研修医生活が始まり早半年が経ち少しずつ仕事をこなすことに慣れてはきたのですが、まだまだ皆さんにご迷惑をおかけしている毎日です。

私は、最初に内科系の循環器、消化器、腎臓内科をローテートした後、麻酔科、救急部、外科とローテートすることとなっています。循環器内科では心臓カテーテルで大腿静脈を穿刺しスワングアンツカテーテルを進めるのは研修医の仕事です。正直今まで針を人に刺したこともないのにいきなりスワングアンツ？と不安に思いましたが、指導医の先生が丁寧に教えてくださいました。その他循環器では心不全の急性増悪や心筋梗塞の急性期などを救急外来で多く経験しました。またモービルCCUで出勤し心筋梗塞の超急性期も経

験することができました。次に消化器内科では週2回外来での腹部エコー検査を担当し所見を書いて指導医にチェックしてもらいます。ただの見学ではなく診療医としての実感がわきます。救急外来では吐血・下血による出血性ショック、それに対する緊急内視鏡や肝性脳症による意識障害等を経験しました。

腎臓内科では毎朝透析患者さんのシャント穿刺を行います。緊急で透析が必要になった患者さんがいる時には研修医が鼠径部からの透析カテーテルを挿入します。またシャント閉塞の際にはPTAを行ったり、シャント作成術の際は助手として手術に参加したり常に研修医は治療に参加することができます。

現在は麻酔科をローテートしており気管挿管やルンバル、術中管理を勉強させていただいています。

このように当院の研修は積極的に医療行為に参加することができ手技的な面でも他院の研修医よりも多くやらせていただいているようで上達も早いと思います。その分忙しいですが充実した研修医生活を送らせていただいています。この先まだまだご迷惑をおかけすることも多いと思いますがこれからもご指導の程よろしくお願いいたします。

# ■ 研修のご案内 ■

## 第25回 熊本がんフォーラム(無料)

日時▶平成21年12月3日(木)19:00~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

「食道がんの治療」

その他、一般演題を数題準備しています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

司会 庄嶋医院長 庄嶋 健

講師 国立病院機構熊本医療センター外科医長 宮成 信友

## 第100回記念三木会特別講演会(無料)

～糖尿病地域連携の確立を目指して～

〔熊本県糖尿病対策推進会議認定後援会認定〕

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成21年12月17日(木)19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

### 特別講演

19:00~20:00

座長 熊本大学大学院医学薬学研究部代謝内科教授

荒木 栄一

「糖尿病地域連携の確立を目指して～施設・職種を越えて～」

東京医科大学八王子医療センター医療情報室教授

植木 彬夫

### シンポジウム

20:00~21:00

座長 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内科部長

東 輝一郎

国立病院機構宮崎病院副院長

小堀 祥三

スペシャルアドバイザー

国立病院機構熊本医療センター統括診療部長

野村 一俊

シンポジスト

国立病院機構熊本医療センター内科医長

豊永 哲至

熊本県医師会理事

田代 祐基

熊本県健康福祉部健康づくり推進課課長

岩谷 典学

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎 TEL 096-353-6501(代表) 内線705

## 第131回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成21年12月21日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長

柏原 光介

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例検討「無症候性心筋梗塞を起こしたターナー症候群の1例」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科

釜田いずみ

4. ミニレクチャー「妊娠糖尿病について」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

児玉 章子

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 医学生の為の病院見学のご案内

国立病院機構熊本医療センターでは、医学生を対象に病院見学を受け付けております。日本でも有数の救急車受け入れ実績を有する救命救急センターや鏡視下手術、造血幹細胞移植や血管再生療法など最先端の医療を垣間見ることができます。お申込みは国立病院機構熊本医療センター管理課鶴見(TEL096-353-6501)迄ご連絡下さい。

※見学の際は、白衣と大学名、氏名の記載してある名札をご持参下さい。

詳細については：<http://www.hosp.go.jp/~knh/> まで

# 2009年 研修日程表 12月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

12月	研修センターホール	研修室	その他
1日(火)			15:00~19:00 外科術前術後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
2日(水)	18:00~19:30 第60回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会(公開)		
3日(木)	19:00~20:00 第25回 熊本がんフォーラム 「食道がんの治療」 司会 庄嶋医院長 庄嶋 健 講師 国立病院機構熊本医療センター-外科医長 宮成 信友		7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
4日(金)			8:00~ 8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
5日(土)			10:00~12:00 楽しく学ぶ基礎看護技術講座 看学
7日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
8日(火)			15:00~18:30 外科術前術後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2 18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
9日(水)			17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
10日(木)			7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
11日(金)			8:00~ 8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
12日(土)	13:30~16:30 第115回 看護卒後研修 「クリティカルケア看護」 済生会熊本病院急性・重症患者看護専門看護師 杉野由起子		
14日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
15日(火)	18:00~19:30 第50回 くすりの勉強会(公開)		15:00~19:00 外科術前術後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
16日(水)			17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
17日(木)	19:00~21:00 第100回記念三木会特別講演会 ～糖尿病地域連携の確立を目指して～ 座長 熊本大学大学院医学薬学研究部 代謝内科 教授 荒木 栄一 「糖尿病地域連携の確立を目指して～施設・職種を超えて～」 講師 東京医科大学八王子医療センター 医療情報室 教授 植木 彬夫	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
18日(金)			8:00~ 8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
19日(土)	14:00~16:00 公開肝臓病教室 「もっと知りたい肝臓の話 ～肝臓で広がる地域の和～」		
21日(月)	19:00~20:30 第131回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座 3単位認定]		8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
22日(火)		19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	15:00~19:00 外科術前術後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
24日(木)			7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
25日(金)			8:00~ 8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
26日(土)	10:00~16:30 第7回 熊本EBMセミナー		
28日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来

研1・2 2階研修室1・2 C1 3階カンファレンスルーム1 C2 3階カンファレンスルーム2 5西 5階西病棟 看学 看護学校 外来 小児科外来 6北 6階北病棟 消 消化器病センター-読影室 手術室  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター 2階 地域医療研修センター  
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)